

令和5年10月19日研究公開報告

令和4・5年度大隅地区研究協力校研究公開 垂水市立協和小学校で

「複式教育【国語科】」についての研究公開が開催されました。

令和5年10月19日（木）に、垂水市立協和小学校にて、大隅地区研究協力校「複式教育（国語科）」の研究公開が行われました。協和小学校は、令和4年度から2年間、「主体的・対話的で深い学び」の視点から国語科の授業改善に取り組んできました。

研究主題は「複式・少人数学級における主体的・対話的で深い学びの追求～国語科における『書くこと』の指導を通して～」です。当日は、意見交換を充実させるための前時の工夫や三角ロジックを意識した言語活動の充実、自力解決から協働的な学びへとつながるための手立てなどが研究内容として示されました。そして、公開授業で表出した児童の姿から研究の成果が伝わり、授業研究では、研究の視点に沿った意見交換が活発に行われました。



【閉会のあいさつ】
富田 茂也 校長先生

【研究発表】

研修係の西村先生は、国語科のみならず、あらゆる活動の中に「書く」活動を位置付け、シンキングツールの活用やガイド学習を通して、教師が、児童の自力解決から協働的な学びを意識することで、児童が多面的・多角的な視点を育み、主体的・対話的で深い学びをするようになったと紹介されました。

また、様々な教育活動にICTを活用し、児童が情報の収集・整理・共有・活用をすることで、更に深く思考するようになったと分かりやすく説明されました。



【研究発表の様子】

【授業研究】

授業研究では、研究実践の3つの視点である「書く活動の充実」、「ガイド学習の確立」、「ICTの効果的活用」で協議が行われました。参加者からは、「子供たちが、自分たちで学びを進めていく姿が印象的だった。」と、日々の協働的な学習の積み重ねの重要性や、各学校のICTの使い方など、様々な意見が出され、有意義な時間となりました。



【授業研究の様子】

【公開授業：複式第5・6学年 国語】

単元 5年「資料を用いた文章の効果を考え、それをいかして書こう」
（教材名「固有種が教えてくれること」他 光村図書5年）

5年生は、家庭学習で書いてきた要旨を友達同士で見せ合い、友達のよいところや真似したいところを、ICTを使って意見交換をする授業でした。ガイド役の児童を中心に、黒板前で試行錯誤しながら意見をまとめる姿が印象的でした。

意見交換後には、学習前と学習後の変容を振り返る場面も設定され、児童は、要旨をまとめる視点を確認しました。



【5年生の様子】

単元 6年「表現の工夫をとらえて読み、それをいかして書こう」
（教材名「『鳥獣戯画』を読む」他 光村図書6年）

6年生は、単元のゴールであるパンフレット作りで、どのような工夫をすれば、自分の考えが、より相手に伝わるか、筆者の表現の工夫を学ぶ授業でした。

三角ロジックを使って、根拠と理由を明確にしながら、自分の意見をまとめました。ロイロノート（共有ノート）を利用するなど、児童はタブレット端末を巧みに使い、活発な意見交換を行っていました。



【6年生の様子】